



『御舟入堀』利用の時代変化

塩竈港に鉄道が来てから、造られた役割は終わったものと思われる。

干潟が多かったこともあり、当時の木造船の製造や修繕の場所としての役割は継続されたと思う。

木造船は、初期北洋独航船20トンクラスから小型の伝馬船まで造られていたと聞いている。

舟運は、チリ津波の前まで、積み荷は不明ながら行き来しており、その『ひらだ船』は、住まいにもなっていた。

運河沿いには、水産加工場が一気に増えた時期があったと思う。干物の他、肥料の製造、練物だったと思う。

海苔養殖業がブームになると堀沿いには養殖用の小舟の係留が増大した。

S40年前後から、レジャーとして釣りを楽しむ舟艇利用者が増え、貸し船業の船も含めて、係留船は増加した。

S35チリ津波以降、塩釜港に1万トン級船が入れるようになり、堀沿いには製材所が、3ヶ所程度できたと思う。

輸入された木材で堀は、わずかな水路を残し埋め尽くされたと言いたくなる様相と変化した。

堀へ垂れ流しの水産加工汚水と水面に浮く材木の防腐剤で悪臭を伴い、水質は一気に悪化した。

貞山橋の南西側には、糞尿積み込み棧橋があり、堀外湾積み替え後に外洋投棄する仙台市衛生局の拠点があった。

前述の向かい側には、美しい松林と桜並木が敷地内にある発電所跡地があった。憩いの遊び場だった。

(大きなピンク色の建物で戦後、ドイツ製の発電機は、進駐軍の手に、S40年頃は、東北大の地震か風力かの実験施設に使われていた。)

S40年代後半、材木市場の変化と環境規制などで堀に浮かぶ木材が無くなったり、海苔養殖ブームは下降し船も少なくなった。

S50年前後からはFRP製のプレジャーボートが目立つようになり、S60年頃からは、一気に増え始めた。

バブル期に入ると、処かまわず水面と土手などの私物化が本格化し、景観を損なう構築物・小屋など、いたるところに現れた。

県の係留施設設置対策も追いつかず、規制も追いつかず、2011年3月まで増加を続けたが、津波で一掃された。

311津波で一掃された堀の放置艇は、貞山橋と長峰橋間に、震災前のこのエリア比較で70%程度復活し、景観と秩序を悪化させ続けている。

水質と匂いの変化（見た目と生態系と雰囲気）

材木や水産加工場が少なかった頃、醤油工場はあったものの、悪臭を感じた記憶は無く、貞山橋の上からは、堀底の牡蠣殻状の白い底質が見られた。

堀域では、ハゼ釣り放題、アサリも豊富、クモダコもいた。季節によっては、クロダイ・小サバも釣れたし、ウナギも多く捕られていた。

浮上材木と加工場全盛期、少雨・干潮時の白濁のような汚い水が悪臭を伴い、住民としては、嫌な記憶として残っている。

大代エリアでも水産加工場や肥料工場があった。昭和の終わり頃まで残っていたと思う一軒の工場は、地域住民の悩みの種、悪臭原だった。

S40年代後半、新仙台港へ水路が抜けた頃以降、化学肥料の一般化で水産加工場減、材木市場変化、環境規制などで堀の水は良くなり始めた。

前述ながら、自宅前の水深比較(堀最深部)をS48年とS56年比較したことがある。ヘドロが0.5m増えていた。(船揚げ場の斜路設計工事のため測量)

大代の下水処理場が被災した、先の震災時の大変な悪臭は、2年ほど続いたと思うが、3年目以降水質匂いともに良くなりヘドロも減ったと思う。

堀域の復興工事も進み工事による影響もなくなった気もする最近では、水質も良くなり魚も貝も増えワカメも生え、時にイワシも回遊する自宅前となった。

堀は、お陰様でいい感じになりつつある。今後は観光地としても見られる目線をも意識した景観と秩序と地域民の誇れる憩いの場として進化して欲しい。

S35年チリ津波の経験

自宅前堀の水が異様にひき始め跳めていたら、堀向の道を幌の付いたトラックの屋根のスピーカーから、のんびりとしたサイレン音が聞こえた。

堀の水は一気に、対岸に渡るほどにひいたあと間もなく津波が来た。ひいた堀中から玄関まで急いだが、水に追いつかれた。

津波がひいた後、近所の人たちは、津波で打ち揚げられた魚捕りに夢中だった。父もまた、太い鰻と格闘していた記憶がある。

津波は、押し入れ上段下まで来ていた。この時の高さが、自分の津波高基準となった。その晩は、近所の土手上の家に泊めてもらった記憶がある。

海沿いで働くこと、施設を造る事等、この時の津波の高さが基準となり、マリーナの設計・土地の選択・自宅の設計等、全ての基になった。

水が引いたわずかな水路を大量の魚が行き来したり、捕れそうで捕れないでかい魚が泳ぐ睡眠時の変な夢は、たぶんこの後、よく見るようになった。

311では、チリ津波の高さ基準で造ったあらゆる施設が、自分の想定より1m高かったため大きな教訓を残す結果となった。

S35チリ津波までは、醤油工場の堀へ突き出した屋根の下で、雨の日でも釣りをしていた記憶がある

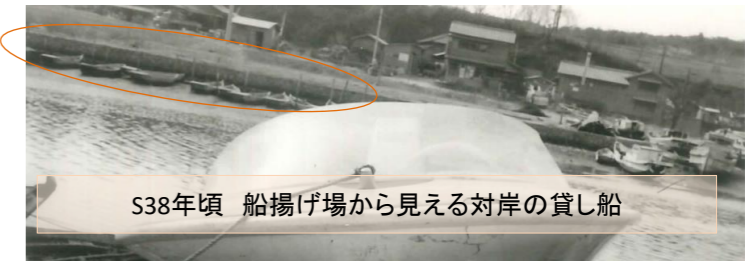


撮影時期不明、亡父が若い時撮影の御舟入堀

S30年代と思う貞山橋を自宅堀向かいから撮影



S38年頃 船揚げ場から見える対岸の貸し船



S38年頃 自宅前からの貞山橋

